



田井 真一 議員
(改革未来・自民の風)

加西病院の変革について



毎年 20 億円の繰入れが必要となります。

問 新病院建設費が、当初の 78 億円から 138 億円と大きく膨らみ、1 病床当たり 1 億円となっていることについて。

答 (市長) 138 億円になった時点で、本来は見直しだと思います。2021 年の 1 病床当たりの平均が 2,500 万円、物価高により 3,000 万円としても、140 床であれば、50 億円までです。138 億円の起債の返済総額は 200 億円、30 年間毎年 7 億円の返済、医療機器等を考慮すれば毎年 10 億円です。病床機能の見直しにより診療単価が 2～3 割減少するため、

問 現地での建て替えとなると、騒音や振動などによる診療への悪影響が想定される。別の平地の方が、建設費や維持管理費、アクセスの面でメリットがあるのでは。

答 (市長) 病院の建て替えは移転が基本で、工事騒音による診療への影響、入院制限による減収などを勘案すると、新しい場所で建設すべきです。病院と開業医とが連携できるような街づくり構想も検討します。

問 病床数、医療機能の再検討及び医師確保について。

答 (市長) 報告されているとおり、病床数 136 床、うち急性期病床 56 床、療養病床 80 床

とします。医師確保については、勤務環境を整備し、北播磨総合医療センターを核とした診療支援体制の中で連携を具体化するとともに、ドクターバンクも活用していきます。

問 地方独立行政法人化などの運営形態の抜本的な見直しなどによる経営改革と意識改革について。

答 (市長) 地方公営企業法の全部適用の下、病院事業管理者の責任と権限で運営ができており、北播磨総合医療センターとの連携等を想定すれば、現行形態での運営が適していると思います。今後、経営計画がはっきりしてきた時点で考えていきます。

■その他の質問項目

- ・小中学校再編計画について
- ・道の駅整備計画について



中右 憲利 議員
(令和新風加西)

学校再編等について



問 西村市政時に「加西市未来の学校構想検討委員会」から答申を受け取り、市民ワークショップ等を経て、多くの経費、労力を費やして作成された学校再編計画をどうされるのか。

答 (市長) 市の素案がそのまま答申になった印象は拭えません。選挙中にも「中学校 2 校に集約、小学校は 11 校のままで本当にいいのか。」という声を多く聞きました。私もそういう状況に危機感を持ち、再度もう少し時間をかけて説明し理解を得てからやるべき、という判断に至りました。

問 民輪前教育長が進められていた STEAM 教育について。

答 (市長) STEAM というのは文理融合ということで、本来大学、高校レベルの話です。義務教育ではもっと基礎基本に力を入れるべきと思っています。基礎基本の習得を目標に、考える力をつけていくという方針でやっていたらいいのではないかと考えています。教育の問題については新教育長と総合教育会議の場で協議したいと思っています。

問 来年の加西能を中止することだが、能では人間国宝の大槻文蔵さん、能楽協会理事長の観世鍔之丞さん、狂言では大スターの野村萬齋さんが、毎年加西市という田舎に来て演じてくださるといことは奇跡的なこと、また、こども狂言塾のレベル

も相当に上がっていて、能・狂言という伝統芸能は加西の新しい文化となりつつある。ぜひ市民の意見を聞いて判断していただきたいと思うが、いかがか。

答 (市長) 今回の中止については、市民の要望を聞いた上で判断したものです。加西能は 1 時間に 1,000 万円以上の費用がかかる上、それが東京に流れて地元貢献がほとんどないという声が多く寄せられました。こども狂言塾についても希望者が減っています。その予算で地域の伝統文化、祭りを継承するための支援をしてほしいという切実な声を聞いていますので、その方向性を政策として打ち出しました。

■その他の質問項目

- ・市立加西病院について